

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「放課後子ども教室」（宮城県気仙沼市）

取組の概要や経緯

令和2年度から保護者、地域住民等で組織された「月立小学校スクールサポータースタッフこだま隊」の参画を得て、気仙沼市立月立小学校で実施している。被災による影響が大きい本市において、子供たちに安心・安全な居場所を提供しながら、学習支援等を行うことで、学びを通じた地域コミュニティづくり、地域全体で子どもを育てる体制づくりに努めている。



内容

- ・放課後において、児童への学習活動支援（宿題や自主学習の補助）、交流活動（折り紙、工作活動等）、スポーツ活動を週1回以上の頻度で開催した。
- ・講師を招いてのバルーンアート講座を4回開催した。
- ・市担当職員による安全教室を開催した。
- ・長期休業中には、地区内の公民館で開催した。
- ・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を会場に、復興の担い手づくりに貢献すべく高校生の語り部ボランティアガイドの参画を得た体験学習を開催した。



ポイント

- ・児童、保護者、地域住民の参加型による持続可能な取組の推進
- ・日々のプログラムに学習支援に加えて、交流活動やスポーツ活動を位置づけることによる、児童と運営スタッフとの良好な関係づくり・居場所づくりの推進
- ・震災の教訓を風化させないための地域の文化施設を有効利用した防災学習の推進

成果

- ・被災による生活環境の変化がある中で、参加児童や運営スタッフも安定的に参加できており、学習環境の好転につながっている。
- ・世代間交流が行われ、地域住民とのつながりが広がったことで地域の活性化につながった。
- ・高校生の語り部ボランティアガイドの参画を得て実施したことで、震災の教訓を今後の生活に活かそうするなど参加児童の震災復興への意識が高まり、復興に向けた担い手づくりに貢献できた。

実施回数	50回
延べ利用人数	673人
教訓を生かしたいと考える児童の割合	100%

今後の方向性

- ・児童や保護者からの需要が高まっていると考えられるため、週2回程度の継続的な実施を計画する。
- ・震災からの地域コミュニティ復興に向けた意欲醸成を図るため、定期的な防災学習を実施し、地域復興の担い手としての人材育成に努める。
- ・中学生やジュニア・リーダーといった異年齢集団との交流活動を取り入れることによる地域コミュニティの活性化を目指す。

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」（宮城県多賀城市）

取組の概要や経緯

【放課後子ども教室】

平成20年度より事業を開始し、震災の影響で平成23年度に一時休止したが、平成23年7月より事業を再開した。放課後等に子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域住民の方々の参画を得て、子どもたちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としている。

内容

- ・活動日時…授業終了後から午後4時30分まで
- ・活動内容…学習（宿題や自主学習）、防災学習、外遊び、季節に応じたものづくり等
- ・イベント…割り箸鉄砲づくり・ブーメランづくり・ダンボール工作

ポイント

- ・地域の防災士や地域住民による防災学習を実施している。
- ・大学と連携し、学生ボランティアが年間を通して参加している。
- ・コーディネーター中心に創意工夫をしながら、多様な体験活動を実施している。
- ・わくわく通信を年に2回発行し、教職員や保護者に活動の様子を周知している。
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学年・学級を分けるなどの対応を講じ、学校の状況を踏まえながら開催できた。



地域の防災士による防災ビンゴゲーム

成果

実施できた学校の合計年間活動日数について、昨年度は54日に対して、今年度は120日と2倍以上の活動日数ができ、児童にとっての安全・安心な居場所を提供することができた。

また、防災学習では、楽しく防災減災について学ぶ場面と地域の大人から東日本大震災の話聞く場面を設定した。児童は住んでいる所で起きた震災の話ということで、真剣に聞いていた。アンケートでは、ほぼ全員が、今回学んだ震災の話を家族や友達等、多くの人に伝えたいと答えた。



震災当時の講話



災害時用の紙皿づくり体験

今後の方向性

- ・児童に多様な学びや体験を提供できるよう、中高大学生や地域住民とのネットワーク（地域学校協働本部との連携）を広げ、協力体制を整えていく。
- ・令和4年度は、小学校6校のうち3校での実施であった。令和5年度は6校全てでの開催を目指す。



学生ボランティアの参加

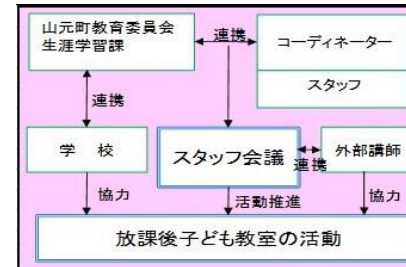


「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「山元町放課後子ども教室推進事業」（宮城県山元町）

取組の概要や経緯

余裕教室や周辺施設を活用しながら、放課後の子供たちの活動を地域住民が見守り、異年齢の交流を生み出す**地域住民の一体となったコミュニティの確立を推進**する。また、子供たちが地域の大人と様々な体験をしながら、**心豊かでたくましい人間形成**を図ることにより、**地域の小・中・高校生の担い手づくり**につなげていく。



はまっこキッズ 震災遺構中浜小学校見学

内容

- **はまっこキッズ**（主な活動場所：山元町立坂元小学校）
 - ・ 毎週金曜日の14:30～16:00に、坂元小学校児童を対象として活動を進める。
- **みやまっこクラブ**（主な活動場所：山元町立山下第一小学校）
 - ・ 毎週月曜日の14:45～16:00に、山下小学校・山下第一小学校・山下第二小学校児童を対象として活動を進める。
- ◎ 主な活動内容として、スタッフ間での創意工夫をしておの活動のほか、地域住民を講師に迎え、ニュースポーツ、ものづくり体験、手作り遊び体験、民話・昔遊び体験、りんご狩り体験などを実施している。
また、震災遺構中浜小学校見学や、ジュニア・リーダーとともに防災について考える活動などを取り入れ、児童の防災意識を高めるとともに、中・高生の地域の担い手になろうという意識の高まりや育成についても意図しながら活動を行う。



みやまっこクラブ リンゴ狩り

ポイント

- ① コーディネーター、スタッフが**創意工夫**をしながらバリエーションに富んだ活動を企画している。
- ② 地域の産業、伝統芸能、サークル活動などの**地域素材にふれ、体験する活動を実施**している。
- ③ 子供から大人までの異年齢の関わりにつながる**地域コミュニティづくりの一助**となっている。
- ④ 児童との関わりを通して、**中・高生の担い手を育成**し、地域づくりにつなげている。

成果

- 放課後の児童の安全・安心な居場所づくりとなっており、様々な活動に**意欲的に取り組む様子**が多く見られる。
- 児童の満足感がスタッフに伝わることで、スタッフの**やりがいと次の活動への意欲**の高まりが見られ、地域づくりにつながっている。
- 活動を重ねることで、異学年交流・世代間交流が広がりを生み、**地域コミュニティづくり**につながっている。特に、ジュニア・リーダーの研修会と組み合わせ、**中高生が小学生に伝承する活動**を設定するなどした結果、活動後、中高生の**次世代の担い手**になろうという意欲の高まりが見られた。

今後の方向性

- 児童数が年々減少していることもあり、登録児童も減少傾向にある。また、上学年児童は6時間授業のために参加することが難しい曜日もあり、学校の活動と重なることもあるため、調整しながらより良い在り方を探っていく。
- ジュニア・リーダーとの関わりを随所で取り入れることにより、さらに多くの児童や中高生が、今後地域の担い手になろうという意欲を高める機会にしていく。

「子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「令和4年度女川町放課後の子供の居場所づくり事業(おながわ放課後楽校)」(女川町)

取組の概要や経緯

震災後、住宅の集団移転や高台への新築等により、従前の地域コミュニティは大きく変化した。新しい生活環境への対応と地域住民によるコミュニティの再構築、震災後の不安定な生活環境の中で幼児期を過ごした子供たちの心の支援が依然として必要な状況である。また、放課後の過ごし方に課題が見られる児童も多い。このような児童に対して、学校を核として、地域住民を講師等に活用しながら、児童が安全・安心な放課後の時間過ごせる居場所づくりを推進し、児童の心のケアや豊かな人間性と社会性を育てることを目的に本事業を実施している。



内容

教育局が、学校や地域住民等との連絡・企画調整を行い、地域や学校の実情に応じながら特色ある講座を提供し、放課後の活動を充実させている。特に、本事業の特徴は、児童が主体的に宿題や外遊び、体験講座等を選択できること、また、中高生がボランティアとして参加していることである。各講座は、児童の実態を把握し、検証委員会で共通理解を図り実施している。昨今の課題でもある体力の低下に特化した講座を中心に、地域講師との交流ができるような様々な講座を開講している。



ポイント

本事業は、本局だけで実施することができない取組なので、一般社団法人まちとこ「女川向学館」や健康福祉課等との連携で成り立っている。また、各講座を担当する多数の講師たちと打合せを行い、事後の意見交換等も行っている。ジュニア・リーダーの実践の場としても重要な位置づけとなっている。

成果

参加延べ人数が、昨年度の約1.8倍となった。また、利用者の保護者からは、「いつも楽しい講座を開いていただき、良い経験になっている」「宿題も終わらせ、目いっぱい身体を動かしてくるから、よく食べ、良く寝てくれる」などの感想が挙げられた。

高学年が主体となり、異年齢集団での遊びが自然発生的に行われるようになった。中高生がボランティアとして関わっていることもあり、アンケート結果から、中学生、高校生になったら、放課後楽校で小学生と遊んだり、宿題を教えたりする手伝いをしたいと答える児童が増えてきた。

今後の方向性

長期的に安定した運営をしていくためには、今後は、近隣住民が児童と関わり活動したり、保護者や中学生が学習の補助をしたりする構想を練っている。地域の方々が町内の児童に関心を持つために、事業の広報活動を行い、広く協力を呼び掛けていく。学校を核とした地域力の強化のためにも、放課後の貴重な時間を有効活用し、地域を繋げる生涯学習の充実を図りたい。

「令和4年度女川町放課後の子供の居場所づくり事業(まなびっこ)」(女川町)

取組の概要や経緯

地域のどの子供にも、生涯学習につながる学びや体験を社会教育施設や集会所等を活用し機会を提供する。また、子供達が自主的・主体的に学習及び体験を選択することにより、自ら学ぶ向上心を養い、他とのかかわりや学び合いにより、生涯にわたり学び続ける力の土台を養いながら、未来の地域のリーダーとしての資質の素地を養うことをねらいとして実施している。

内容

季節に合わせて年間4回講座と特別講座を開講した。講座は下記のとおりである。

まなびっこ春…クラシックバレエ体験コース、かわいい苔玉づくりコース、料理教室コース、女川子供映画教室
まなびっこ特別編…①海の体験活動(釣り) ②アスレチックで遊ぼう ③大型紙芝居読み聞かせ ④陶芸教室
⑤和紙を使っての凧づくり、凧あげ ⑥ペタンクを教えてもらう

まなびっこ夏…粘土細工コース、お絵かきコース、寄せ植えづくりコース、クッキングコース、女川子供映画教室

まなびっこ秋…身体表現系コース(ダンス)、科学実験系コース(おもしろ実験)、食物系コース(クッキング)

まなびっこキッズランドin女川…ステージ発表の部、ミニミニ体験の部(電気実験、ヘアメイク体験、竹灯りづくり、バレエ体験)、みんなで遊ぼうの部(プラレール、昔の遊び、段ボール遊び)

子供たちは、それぞれの講座から選択して学習や体験を行う。



ポイント

- ①地域人材を活用し、子供と関りながら地域活性を目指す。
- ②女川町児童クラブと連携し、学びを提供する。
- ③沢山の講座を設けることで、子供たちが主体的に選択、行動し、学びや体験にチャレンジできる。
- ④社会教育施設を会場に実施するため、子供たちは施設利用に慣れ、親しみを持つことで、将来の活動場所につながる。



成果

様々な環境に置かれている子供たちが対象となっているので、体験したことが今年一番の思い出になる子供もいる。様々な学びや体験がを自ら選んで行う本事業は、生涯学習の素地を構築する良い機会となっている。また、地域住民と交流することで、地域の活性化の一助となっている。

今後の方向性

今後、地域と子供たちを積極的につなげる活動を推奨すると同時に、子供たちの地域への愛着を育み、女川町の人材として育てていけるような講座とする。